ダニエル・オッテンザマー （クラリネット）

Daniel Ottensamer, clarinet

ニールセン国際コンクールなどで多くの受賞を経て、2009年からウィーン国立歌劇場管弦楽団、2012年からウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者。

　ソリストとして、マゼール、ドゥダメル、ネルソンスらの指揮のもと、ウィーン・フィルやN響などと共演。2021年には、ザルツブルク音楽祭にソリストとしてデビューを飾り、M.ホーネック指揮／カメラータ・ザルツブルクとモーツァルトのクラリネット協奏曲を演奏した。

室内楽でもバレンボイム、R.カプソン、マイスキー、ハーゲン・クァルテットらと共演。アンサンブル“フィルハーモニクス”の創設メンバーとして精力的に活動している。

録音も多く、ソロではモーツァルトとフランセのクラリネット協奏曲をソニー・クラシカルからリリース。“フィルハーモニクス”ではドイツ・グラモフォンと専属契約を結んでいる。2022年には、あらゆる時代に書かれたクラリネット三重奏曲を取り上げた７枚組のアルバム「The Clarinet Trio Anthology」をデッカからリリース。続いて2023年に、A.フィッシャー指揮／ウィーン・フィルとの共演でニールセンのクラリネット協奏曲をソニーから発表した。

2024/25年シーズンから、大阪フィルハーモニー交響楽団のアーティスト・イン・レジデンスを務めている。